

# 高浜・大飯同時事故盛る

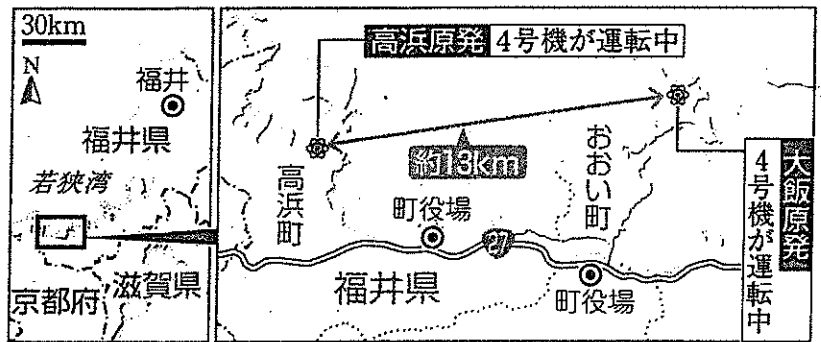
## 県など 原発避難計画を改定

福井、滋賀、京都の三府県と内閣府などは三十日、原発事故時の避難計画を議論する地域原子力防災協議会を開き、関西電力の高浜原発（高浜町）と大飯原発（おおい町）の避難計画を改定した。約十三キロの距離で近接する両原発の同時事故を想定に加えたほか、新型コロナウイルスの感染拡大防止策を反映させた。同時事故の対策を盛り込むのは全国初。（今井智文）

### コロナ拡大防止策も反映

両原発はともに再稼働し、現在は高浜4号機と大飯4号機が運転中。高浜町で高浜原発から五キロ圏の高齢者などは美浜町の施設に避難することになっていたが、施設が大飯原発の三十キロ圏内にあることから、避難先を双方の圏外の敦賀市に変更した。同時事故時には、事故対応拠点「オフサイトセンター」の機能を大飯側に統合して対応を一本化するにしようとした。コロナ流行時は、各原発の半径三十キロ圏住民が屋内退避する際は被ばく防止を優先して換気はせず、バスなどで避難する際には車両を増やすなどしてできるだけ分散させる。避難先の施設でも部屋を分けるなどして密集を避ける。

協議会は二〇一五年に高浜原発、一七年に大飯原発の計画を取りまとめたが、同時事故の対策は先送りしていた。



福井県は八月二十七日に事故を想定した防災訓練を行い、コロナ対策を検証す